

都道府県名	山 梨 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	六郷町立六郷小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	2	1	1	1	1	9	14
児童数	43	38	48	39	35	34	1	238	

研究の概要

1. 研究主題

学びを問い直す

2. 研究内容与方法

(1)実施学年・教科

1年～6年 算数
 ・学年が進むにつれて算数嫌いが増える傾向がある。その反面、できるようになりたいという願いが強い。
 ・理解に個人差がやすい。
 ・内容削減が学力の低下につながるという批判がある。
 ・知識理解、技能といった学んだ結果のものだけでなく、学んでいく過程で探求したり推論したりして共に学ぶ楽しさを実感できる指導方法を探ることが重要と考える。

(2)年次ごとの計画

平成14年度
 テーマ
 対話のある授業をどう構成するか。
 研究の見通し(仮説)
 対話のある授業を構成することによって子ども達の学ぶ意欲や学ぶ力を育てることができ、それによって学力の向上が図れるであろう。
 研究の内容・方法
 ・「活動的な学び」「協同的な学び」「知識や技能を表現し共有し吟味する学び」を成立するために必要な要素は何かを明らかにする。
 ・「対話」に焦点を当て、一人一人がそれぞれの研究のテーマを明らかにしながら授業実践を進め、交流しあう。

平成15年度
 テーマ
 自らの学びを育てる授業をめざして
 研究の見通し
 ・問題意識を持ち、筋を通して考えたり、友達の意見と関わらせて自分の意見を発言できる対話のある授業を構成することによって、自ら学ぶ喜びや学ぶ力を育てていけるのではないか。
 ・教材を工夫し基礎や基本を明らかにして、児童一人一人に迫る指導方法や指導体制の在り方を追求していくことで、なぜの問いを持ち、追求していける力が育まれ、自ら学ぶ意欲や学力の向上が図れるのではないか。
 研究の内容・方法
 ・「量」を背景にした系統的な年間指導計画を作成し、発展的学習との関連を図る。
 ・算数科の基礎・基本を明らかにし、それを単元構成の中に組み入れることによって、単元ごとの基礎基本を明らかにする。
 ・個々の基礎の定着状況をつかみ、指導のための教材化を図ると共に、評価の観点を具体的に明らかにする。
 ・指導計画(時間)をもとに、単元単位で数学的な考え方を育てる場面、習熟し活用できる力を育てる場面を単元構想として位置づける。

- ・基礎基本の定着を図るために、全校的な視野に立ったスキルを作成する。
- ・理解と定着をキーワードにして、一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導と、関わり合いながら学び合う力の関連を図り、有効的な指導方法を明らかにしていく。

平成
16
年度

テーマ

学習意欲を高める評価の在り方

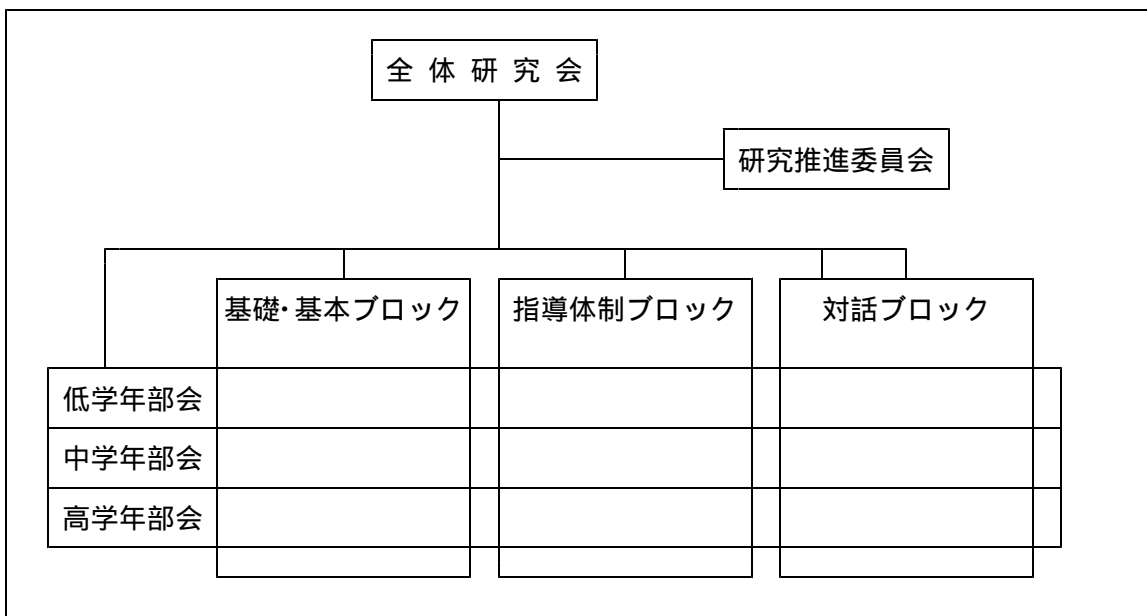
研究の見通し

- ・学んだ結果としての学力の評価だけでなく、学ぶ過程の評価も工夫し、どんなことがわかるか、どこまでできるか、といった子ども自身の可能性やよさを把握していくことで、次の目標や学習意欲の向上につなげ、学力の向上が図れるのではないか。

研究の内容・方法

- ・学力調査をもとに、個々や学習集団として落ち込んでいるものについて単元構造を明らかにし、教材や指導方法を工夫し、成果としてまでの検証を行えるようにする。
- ・授業を中核にして、形成的な評価や、事前・事中・事後の評価、関心意欲の評価の方法を工夫する。それに合わせて、自己評価のねらいを確認し、方法を明らかにしていく。
- ・一つ一つの単元について観点別学習状況の評価を明らかにするとともに、系統的な視点からの検証を行う。
- ・発展的な学習や補充的学習の必要性を確認し、計画の検証を行う。
- ・指導と評価の一体化を図り、指導方法を工夫する。

(3)研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・教科を算数に絞ったことにより、単元構成として授業を分析し、教材研究の重要性が再認識できた。
- ・関わり合いながら学ぶという視点で、様々な考えを出し合う中でどのようにして個々の考えを共有化し、つなぎ合わせ、深めていくかという点でのコミュニケーション能力の分析の必要性や、授業における個々の考えを伝え、深め、論点を明らかにすることなどの教師の支援のあり方が確認できた。
- ・基礎と基本が確認されたことで、何を教え、何を育てるかが見えてきた。単元で数学的な考え方を育て活用できるようにする場面、習熟と定着を図る場面としてとらえ、限られた時間数を有効に生かせる工夫の観点が見えてきた。
- ・きめ細やかな指導のためのT・Tや少人数指導を行う中で、活用方法の有効性が結果として見えてきたこと。

2. 今後の課題

- ・関わり合いのある学びに対して，算数科の授業構成の視点からの分析を行い，学力として明らかにしていくこと。
- ・単元構成をもとに，教材を工夫し，数学的な考え方やその活用能力を育てたり，数量から規則性を見いだして一般化し，問題解決に生かす力を育てるための実践検証をしていくこと。
- ・評価と指導の一貫性を具体的に活用できるようにしていくこと。
- ・T・Tや少人数指導を行う場合の人員配置やモジュール制などに関わる校内体制の整備をしていくこと。
- ・基礎の定着のための家庭学習の位置づけを明らかにし，内容や方法について教科指導との関連を図り，家庭への理解と協力体制を作っていくこと。

学力等把握のための学校としての取組

- ・単元ごとにその学習以前の「基礎」の定着状況を把握し，個々の指導に生かす。
- ・年度末に情意面も含めた学力調査を行い，その分析をもとに個々と学級の来年度の課題を明らかにする。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・峡南地区第2回学力向上推進協議会において，西八・南巨の小中学校研究主任を招いての授業公開を実施
 - 1年 くりさがりのあるひき算(T・T)
 - 4年 面積(少人数指導，T・T)
 - 5年 円をくわしく調べよう(T・T)
- ・小中合同の学習会の中で，管内中学校職員に対して研究の概要や実践を説明する。
- ・平成16年度は，11月19日(金)に公開研究会を開く予定

【新規校・継続校】	14年度からの継続校
【学校規模】	7～12学級
【指導体制】	T・Tによる指導 少人数指導
【研究教科】	算数
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有